

## 瀬戸内の生きられた権伝馬競漕： 変化すること、繰り返すこと

小木曾 航平（広島大学大学院人間社会科学研究所）

### 【発表要旨】

競漕はこれまでもスポーツ人類学の興味関心を引く対象の一つであった。日本には大陸からもたらされたと考えられる長崎県のペーロンや沖縄県のハーリーのほか、瀬戸内海を中心として西日本で広く行われてきた権伝馬競漕がある。この権伝馬競漕についてはこれまでも、その実施方法や身体技法の変化がスポーツ化の視点から議論されてきた [石井 1998; 安富 1997, 1998]。しかし、2000 年代以降、これを対象とした研究は少なくなった。

そうした中、近年、再び権伝馬競漕に関わる重要な研究がなされてきている。一つは柴山慧らによる大崎上島の権伝馬競漕を対象とする一連の研究 [柴山 2017, 2018; 広島商船高等専門学校 COC 事業教育・文化グループ 2017] であり、もう一つは大久保聖子による広島県の管絃祭に関する研究である [大久保 2019, 2020]。前者はこれまで断片的に語られるにとどまっていた大崎上島の権伝馬の歴史と現在の状況を船舶工学やスポーツ科学の視点も取り入れながら明らかにしている。後者は平清盛によって始められたとされる厳島神社の管絃祭とその広がり扱った民俗学的研究だが、これまでの管絃祭と権伝馬競漕の関連を考える上で貴重な民族誌的資料を提供してくれる。

本発表は、こうした新しい権伝馬研究の成果を踏まえつつ、スポーツ人類学の視点から現在の瀬戸内（特に大崎上島と大三島）の権伝馬競漕に見出される問題について検討を行い、然るべき議論の上に定位させると同時にそれを以って今日の日本の伝統スポーツの現在地を確認していく作業となる。

### 【参考文献・URL】

- 石井浩一（1998）「瀬戸内の権伝馬競漕～身体技法の変化と不変化～」『体育の科学』48(11): 891-896
- 大久保聖子（2019）「広島県における管絃祭の研究Ⅰ：＜宮島厳島神社と瀬戸内海沿岸地域の管絃祭＞」『広島民俗』92: 94-107.
- 大久保聖子（2020）「広島県における管絃祭の研究Ⅱ：＜山間部の管絃祭と全体の比較考察＞」『広島民俗』93: 57-73.
- 柴山慧・小川浩・朝倉和・山下航正・木下恵介・岸拓真・中道豪一・御堂溪・慶川源将（2017）「日本国内における権伝馬」『広島商船高等専門学校紀要』39: 61-66. [https://doi.org/10.32221/hiroshimashosenkiyo.39.0\\_61](https://doi.org/10.32221/hiroshimashosenkiyo.39.0_61)
- 柴山慧・越智祐光・御堂溪（2018）「東野住吉祭権伝馬競漕における一考察：競漕に焦点をおいて」『広島商船高等専門学校紀要』40: 133-141. [https://doi.org/10.32221/hiroshimashosenkiyo.40.0\\_133](https://doi.org/10.32221/hiroshimashosenkiyo.40.0_133)
- 広島商船高等専門学校 COC 事業教育・文化グループ（2017）『権伝馬に関する調査・研究報告書（平成 29 年度 広島商船高等専門学校 COC 事業）』
- 安富俊雄（1997）「東野町住吉祭・権伝馬競漕：祭礼競技探訪ノート(8)」『地域文化研究』12: 19-33.
- 安富俊雄（1998）「伝統競技の文化変容に関する一考察—伝統的舟競漕の変容」『梅光女学院大学論集』31: 12-23. <http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/bg/metadata/597>